

今週（6月26日から6月30日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、当座預金残高が360兆円台前半で推移する中、四半期末に取引を控える先が見られたため、30日は無担保コールO/N加重平均レートが低下した。

無担保コールO/Nは、26日から29日まではレポ金利の上昇等により、大手行から▲0.07%台、信託・証券業態で▲0.07～▲0.05%、地銀業態で▲0.06～▲0.04%での調達が見られるなど、堅調に推移した。30日は、四半期末日にあたったことで、ビッドが減少し、軟調な地合いで推移した。ターム物は、ショートタームを中心に連日複数の出会いが見られた。

固定金利方式の共通担保オペは29日に、2W・8,000億円がオファーされ、落札額1,590億円(期落ち額1,790億円)となった。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、期末初物は▲0.100%を下回るレートを中心に取引されたものの、その他については概ね▲0.050%前後で推移した。

週初26日から27日のS/Nは、▲0.060～▲0.050%程度のお合い。期末初物となる28日のS/Nは、投資家のオファーが出難くなる中で、▲0.20～▲0.10%程度までレートが低下した。29日のS/Nは期末要因が剥落したことで、▲0.060～▲0.050%程度までレートを戻した。30日のS/Nは、▲0.050%程度のお合い。

SCIは個別銘柄では2y374～377、5y126～132、10y334～347、20y160～161、30y50～55、40y9～10等、カレント近辺に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、日銀の短国買入オペ減額を受けて金利上昇が意識される中、様子見の展開が続いた。

29日に実施された3M物の入札は、▲0.09%近辺まで上昇することも予想されたが、WI取引で▲0.10%のお合いが見られたこともあり、平均落札利回▲0.0982%、按分落札利回▲0.0942%と、予想より多少しっかりとした結果になった。セカンダリーのお合いは、▲0.10～▲0.093%で見られた。

30日には、短国買入オペが事前予想通りの7,500億円でオファーされた。結果は、平均利回較差+0.0000%、按分利回較差▲0.002%とこじっかりであった。

30日に発表された国庫短期証券の買入れ方針では、「7月末の残高を26～28兆円程度とすることをめどとしつつ、金融市場に対する影響を考慮しながら1回当たりのオファー金額を決定する」と発表された。6月末の日本銀行の国庫短期証券買入残高（金融機関からの買入残高）は27兆7,550億円と見込まれ、その内7月中に償還を迎えるものは5兆3,592億円であることから、7月に実施される短国買入オペは合計3.5～5.5兆円程度と予想される。

●CP市場

今週のCP市場は、月末発行、また期明け及び、月初のボーナス支給にあわせたと見られる発行が膨らんだことから、週間発行総額は1兆8,000億円程度に達し、活況なマーケットとなった。特に、ノンバンク、機械、鉄鋼、卸売、食料品業態では500億円超での大口ロットでの発行が散見され、発行量拡大に寄与した。一方で、四半期末は企業が有利子負債を削減する傾向にあることから、償還が集中しており、償還総額は2兆2,700億円程度と、全体では償還超となった。発行レートは、一部銘柄では引続き強めの水準で出合ったものの、先週まで見られた、オペ見合いでレート低下余地を探る動きは一服しており、27日のオペの結果を受けてレートはやや上昇した。その一方で、大口ロットの物、期間の短い物においても、0%での購入意欲は引き続き強く見られた。

27日には、CP等買入オペが、3,500億円オファーされた。今回のオペは、対象銘柄が6月末越物に限られる為、一部では金利低下期待もあったが、応札額が1兆2,117億円と膨らんだことから、平均落札レート▲0.002%、按分落札レート▲0.004%と、前回比（平均0.002%、按分▲0.005%）で平均レートは低下、按分レートは僅かに上昇する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
6/26（月）	20,153.35	0.050	111.31	△ 0.053	△ 0.052	3,604,800
6/27（火）	20,225.09	0.045	111.95	△ 0.050	△ 0.055	3,622,400
6/28（水）	20,130.41	0.054	112.10	△ 0.051	△ 0.052	3,624,900
6/29（木）	20,220.30	0.055	112.29	△ 0.053	△ 0.305	3,625,100
6/30（金）	20,033.43	0.084	111.94	△ 0.069	△ 0.054	3,629,500

来週（7月3日から7月7日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/3 (月)	7月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50) 6月の消費動向調査(内閣府 14:00)				5月の米建設支出 6月のISM 製造業景況指数
7/4 (火)	6月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	10Y 23,000億円 7/6発行			米国祝日(Independence Day)
7/5 (水)	7月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	TB6M 26,000億円 7/10発行	交付税借入 10,500億円 7/13借入		5月の米製造業新規受注・出荷・在庫
7/6 (木)		TB3M 44,000億円 7/10発行	30Y 8,000億円 7/10発行		5月の米貿易収支 6月のISM 非製造業景況指数
7/7 (金)	6月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 5月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00) 5月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)				6月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/3 (月)	600	▲ 4,900	▲ 4,300	全店共通 CP買入 国債補完	▲ 1,800 ▲ 100 2,800	1,600	2,500	▲ 1,800	TB3M発行▲44000 償還41400
7/4 (火)	2,000	▲ 32,000	▲ 30,000	国債買入 短国買入		4,800 7,500	12,300	▲ 17,700	法人税・消費税揚げ 年金保険料揚げ 国立大学法人運営費
7/5 (水)	1,000	3,000	4,000				0	4,000	
7/6 (木)	▲ 1,000	▲ 22,000	▲ 23,000				0	▲ 23,000	10Y発行▲23000 恩給
7/7 (金)	▲ 1,000	2,000	1,000	CP買入		3,000	3,000	4,000	預保借入期日1000
週 間 合 計	1,600	▲ 53,900	▲ 52,300	—	900	16,900	17,800	▲ 34,500	

7/3は日銀予想、7/4以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、大幅な不足日が多いことに加え、30日に調達を行えなかった先が再びビッドを行うと予想され、無担保コールO/N加重平均レートはやや上昇基調になると考えられる。

レポ市場は、投資家からの積極的な資金調達が続くと思われ、▲0.07～▲0.04%程度での推移になると予想する。

短国市場は、5日に6M物、6日に3M物の入札が実施予定となっている。30日に発表された短国買入オペ残高見通しからは、買入残高の減少幅が若干緩やかになる可能性も読み取れ、入札結果に注目したい。

CP市場は、4日にCP等買入オペが3,000億円で実施予定となっている。6月最後のオペの結果を受け、業者の買いもやや限定的となっていることもあり、按分レートが0%に近づく展開になることが予想される。

主要なイベントとしては、3日の7月調査の日銀短観、7日の6月の米雇用統計などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。